

恵那市地域医療ビジョン計画策定委員会作業部会（中間報告）

【経営部会】

開催日	第1回 令和6年9月13日（金曜日） 第2回 9月27日（金曜日） 第3回 10月10日（木曜日） 第4回 11月7日（木曜日）
メンバー	国保上矢作病院：事務長、医事課係長、外来看護師 国保岩村診療所：主任主査、看護師 地域医療課：担当係長
検討内容 1	公立医療機関の規模・機能の検討【国保上矢作病院】
(1) 現状 (委員の意見)	・ 恵南地域の人口減少が著しく、入院・外来患者数が減少している。（最大稼働病床数 R4：37床、R5：36床/56床 R5病床利用率 44%） ・ 救急患者の受け入れが困難になっている。 ・ 入院患者は、慢性期の患者の入院が増加している。 ・ 整形外科を含む外科的手術件数が減少している。 ・ 新規医療従事者の応募がなく、一方、定年退職者が予定されている中、医療従事者の確保が困難となっている。（令和11年度までに定年予定者 10名） ・ 施設設備が著しく老朽化が進展している。（施設等整備部会で記載） ・ 病院は既存施設を改修して持続させる検討も必要。 ・ 東濃地域医療構想等調整会議を踏まえた病床数の検討を行う必要がある。（ダウンサイジングを視野に）
(2) 課題	・ 上矢作病院の病床数を減らしても看護基準の人数は同じのため、人件費の削減は見込めない。 ・ 救急告示病院を取り下げた場合、地方交付税が大幅に減少される。 ・ 人口減少に伴い患者数は減少する。一方、後期高齢者の慢性期の患者の入院が見込まれる。 ・ 医療従事者の確保が困難。（募集するも応募なし） ・ 施設設備全体の老朽化が進展している。（施設基準への影響）
(3) 実施	・ 上矢作病院は、人口減少に伴い患者数の減少及び医療従事者の確保状況により施設規模の検討が必要となる。但し、慢性期の患者の入院の需要はある。 ・ 医療従事者の随時募集はしているが応募がない。現在勤務している職員数では、病院の維持は困難になるため、早急に対策を検討する。 ・ 病院施設の建替えを行う。但し、人口減少が進む中、将来を見据えて病院としての機能を維持するか若しくは規模を縮小し診療所にするか、別に検討をする必要がある。
(4) 計画(案)	・ 病院は、施設規模を検討し、令和●年度に●●にする。 ・ 病院は、令和●年度に●●として建替えを行う。
検討内容 2	公立医療機関の規模・機能の検討【直営診療所】
(1) 現状	・ 各地域の人口減少により、外来患者数が減少している。 ・ 医療従事者（臨床工学技士）の不足により、透析患者数を制限してい

(委員の意見)	・ 新たな医師の確保が困難になっている。(R7、8 所長定年退職) ・ 1 人医師、看護師、事務職（委託）への休暇等支援体制が不十分である。(飯地、三郷診療所) ・ 施設設備の老朽化。(岩村、三郷、上矢作歯科診療所)
(2) 課題	・ 患者数は減少するも、将来にわたり必要な医療サービスを安定的かつ継続的に提供すること。 ・ 医療従事者の定年退職などにより、医療従事者が不足する。 ・ 1 人体制のため、休暇等取得時に支援が必要となる。 ・ 施設設備の老朽化が進行している。
(3) 実施	・ 患者数の推計などを勘案して、診療日及び診療時間の見直しを図る。 ・ 施設設備の老朽化では、令和 3 年度に複合施設である飯地診療所の大規模改修工事を実施した。令和 4 年度から 3 年をかけて山岡診療所の設置してある恵那市健康プラザ大規模改修工事を実施している。 ・ 三郷、串原、岩村診療所の改修工事を実施する。岩村診療所については建替えも視野に入れて検討する。
(4) 計画(案)	・ 令和 7 年度に順次医師や医療従事者の相互支援を実施し、各診療所等の運営を実施。(予定) ・ 令和●年度、岩村診療所の改修工事。(予定)
検討内容 3	医療機器の再配置
(1) 現状	・ 各医療機関への配置。 ・ 各医療機関での耐用年数や使用頻度により更新している。
(2) 課題	・ 各医療機関の診療体制等により医療機器を配置している。 ・ 医療機器の更新計画が医療機関ごとに作成している。
(3) 実施	・ かかりつけ医機能、一次救急として必要な医療機器の配置検討。 ・ 医療機器の更新計画を統一する。
(4) 計画(案)	・ 医療機器の更新計画を令和●年度に策定する。
検討内容 4	市民の健康づくりの啓発活動の検討
(1) 現状 (委員の意見)	・ 恵那市母子健康、成人健康カレンダーに基づき各医療機関で実施している。 ・ 地域広報誌などで医療機関等の情報発信をしている。 ・ 上矢作病院ではセミナーを開催し、上矢作町民へ健康教室などを年 3 回実施している。 ・ 上矢作病院は SNS を利用し情報発信をしている。
(2) 課題	・ 各健康教室など未実施。 ・ 各診療所では地域への情報発信は地域広報誌で行っている、SNS などの媒体が利用できてない。
(3) 実施	・ 市で開催している健康フェスタなどへ積極的に参加し市民の健康づくりに関わる。 ・ 地域広報誌や SNS 等を利用し地域の方へ発信
(4) 計画(案)	・ 健康フェスタなどへの参加可能か検討する。

	・令和●年度、SNS 等の実施する。
検討内容 5	途切れのない医療提供体制の検討
(1) 現状	・各診療所間では、検査内容等の患者情報は共有できていない。
(2) 課題	・各診療所での患者情報は個々に管理している。
(3) 実施	・各診療所は、かかりつけ医機能と一次救急を担い、また市の中核病院である市立恵那病院との連携を強化する。
(4) 計画(案)	・随時
検討内容 6	市立恵那病院（中核医療機関・二次救急医療機関）との連携体制の調整
(1) 現状	・市の中核病院である市立恵那病院を中心に医療提供体制を構築している
(2) 課題	・人口減少により患者数が減少している。 ・医師の確保が困難になっている。
(3) 実施	・市立恵那病院と日常的な連携により、患者の急変時に速やかに受入可能な体制の構築。 ・中核医療施設として、役割や機能を見直す必要がある。
(4) 計画(案)	・今後の方向性について検討をする。
検討内容 7	将来に向けた東濃東部地域（恵那市・中津川市）の広域的な医療提供体制の検討
(1) 現状	・二次医療圏については、岐阜県多治見病院が東濃圏域の高度急性期医療の中心的役割を担っている。 ・二次医療圏の土岐市に公立東濃中部医療センター（土岐市立総合病院・東濃厚生病院の一病院化）が令和8年2月開院予定となる。（病床数400床、34診療科の予定） ・総合病院中津川市民病院は、東濃東部における中核病院として、救急医療、災害医療、小児周産期医療を中心とする急性期医療の充実に取り組んでいる。 ・市立恵那病院では急性期医療、回復期医療を担い、国保上矢作病院は慢性期や在宅医療を担っている。
(2) 課題	・東濃東部地域（恵那市、中津川市）の人口減少により、将来的に両市合わせて10万人規模の人口推移となる。
(3) 実施	・地域の医療を維持するには各医療機関の機能分化を明確化する。
(4) 計画(案)	・まずは各市で医療のあり方について、将来に向けて検討する。 ・広域で検討する場を設けていく。